

SDGsに関する取り組み

- 本市は、各計画に基づきSDGsに関する多様な取り組みを実施しています。



名古屋市総合計画2028



名古屋市SDGs未来都市計画



第4次名古屋市環境基本計画

など

SDGs未来都市



- 本市は、令和元(2019)年に国から持続可能な開発目標(SDGs)達成に向けた取り組みを先導的に進めていく自治体「SDGs未来都市」に選定されました。誰一人取り残さない、経済・社会・環境が調和した持続可能で強靱な都市の実現に向け、旗振り役となって市民、企業、大学、NPOなど多様な主体を巻き込みながら、社会全体で取り組みを推進していきます。

なごやネイチャーポジティブ宣言



- 本市は、平成22(2010)年に愛知・名古屋において開催された生物多様性条約第10回締約国会議(COP10)を契機に、身近な自然の保全・再生と生物多様性の持続可能な利用を市民・事業者とともに推進してきました。また、生物多様性の新たな世界目標において2030年までのミッションとして掲げられた「ネイチャーポジティブ」の実現を目指し、生物多様性の取り組みを進めていくため、令和5年(2023年)10月に「なごやネイチャーポジティブ宣言」を行いました。
- 第4次環境基本計画において重点取り組みとして掲げている「自然や水を活かした、人と生きものにやさしいまちづくり」を推進し、COP10が開催された都市にふさわしい、自然が身近に感じられ、潤いのあるまちづくりを進めていきます。

名古屋市サステナビリティファイナンス・フレームワーク

- 本市は、令和7年8月に「名古屋市総合計画2028」「第4次名古屋市環境基本計画」等を踏まえた「名古屋市サステナビリティファイナンス・フレームワーク」を策定しました。本フレームワークは、第三者評価機関である株式会社日本格付研究所（JCR）より、国際資本市場協会（ICMA）の「グリーンボンド原則2025」「ソーシャルボンド原則2025」「サステナビリティボンドガイドライン2021」「Sustainable Bonds for Nature: A Practitioner's Guide 2025」等との適合性に対する外部評価を取得しています。

名古屋市サステナビリティファイナンス・フレームワークの概要

本フレームワークに基づいて実施可能なファイナンスの種類

グリーン ファイナンス	ネイチャー ファイナンス	ブルー ファイナンス	ソーシャル ファイナンス	サステナビリティ ファイナンス
■ グリーン適格プロジェクト（ネイチャー・ブルーを含む）のみを資金使途とする	■ ネイチャー適格プロジェクトのみを資金使途とする	■ ブルー適格プロジェクトのみを資金使途とする	■ ソーシャル適格プロジェクトのみを資金使途とする	■ グリーン（ネイチャー、ブルーを含む）及びソーシャルを資金使途とする

1

調達資金の使途

- 調達した資金は、名古屋市総合計画等の施策に関連したプロジェクトにかかる新規事業資金/借換資金に充当
- 本フレームワークを活用してグリーン/ネイチャー/ブルー/ソーシャル/サステナビリティファイナンスの調達が可能

2

プロジェクトの評価及び選定プロセス

- 調達資金を充当するプロジェクトの選定は、財政局が各局と協議のうえ候補を抽出し、適格性の検討を行い選定
- プロジェクトの選定に際しては潜在的なネガティブな影響を及ぼすリスクに対して対処した上で実施されることを確認

3

調達資金の管理

- 調達資金は地方自治法第208条（会計年度独立の原則）に則り原則として当該年度中に適格プロジェクトに充当
- また、個別の充当状況については財政局と各局が連携して充当状況の把握を行い、調達超過等が起きないよう適切に管理

4

レポーティング

- 資金充当状況レポーティング：充当プロジェクト及び充当金額につき、資金調達を実施した翌年度に開示
- インパクトレポーティング：充当プロジェクトごとの環境改善効果や社会的成果に関する指標を実務上可能な範囲にて開示

対象プロジェクト(グリーン/ネイチャー/ブルー)

グリーンプロジェクト分類	グリーン適格プロジェクト	環境面での便益
再生可能エネルギー	○ 市有施設への再生可能エネルギー設備(太陽光発電設備)の導入	・ CO ₂ の排出量削減
エネルギー効率	○ 市有施設の省エネルギー化(照明のLED化、省エネルギー機器の導入等)	・ CO ₂ の排出量削減 ・ エネルギー消費量の削減
クリーン輸送	○ 公用車への電動車の導入、電気バス・燃料電池バスの導入、充電インフラ設備の整備 ○ 地下鉄車両の新造・更新、地下鉄関連設備の新設・改修・更新 ○ 自転車通行空間の整備	・ CO ₂ の排出量削減
グリーンビルディング	○ 環境性能の高い公共施設等の新築、改修	・ CO ₂ の排出量削減
汚染の防止と管理	○ 焼却工場の設備更新 ○ 汚泥処理施設の整備	・ 有害物質の排出量削減 ・ CO ₂ の排出量削減
気候変動への適応	○ 河川整備(河川氾濫等に備えたポンプ所及び排水機場の耐水化強化を含む) ○ 下水道による浸水対策(下水道の整備、基幹施設の耐水化) ○ 市有施設における空調設備の新規導入	・ 気候変動に伴う豪雨時の浸水や土砂災害等の被害軽減 ・ 熱中症対策
グリーンプロジェクト分類	ネイチャー適格プロジェクト※	ネイチャープロジェクトとしての便益
生物多様性の保全	○ 東山動植物園の再生(希少動物の「保護」と「増殖」への貢献)	・ 希少動植物の保全・増殖 ・ 生態系の保全への貢献
グリーンプロジェクト分類	ブルー適格プロジェクト※	ブループロジェクトとしての便益
汚染の防止と管理	○ 下水道による水環境の向上 ○ 河川における地下水利用	・ 水質改善
持続可能な水資源及び排水管理	○ 水循環に関わるグリーンインフラの普及	・ 地下水涵養 ・ 洪水緩和対策 ・ 水質改善 ・ ヒートアイランド対策

対象プロジェクト(ソーシャル)

ソーシャルプロジェクト分類	ソーシャル適格プロジェクト	想定される効果 / 対象となる人々
手ごろな価格の基本的インフラ設備	○ インフラ設備(橋りょう、地下鉄構造物、上下水道設備等)の耐震化 ○ 電線類の地中化	・ 防災機能強化 ・ 利用者の安全性向上 【対象となる人々】 地域住民・自然災害の罹災者
	○ 名古屋駅ターミナル機能強化(ユニバーサルデザイン等に基づく空間形成等)	・ 持続可能で強靱なまちづくり(バリアフリー・ユニバーサルデザインのまちづくり) 【対象となる人々】 地域住民・駅利用者
	○ リニア駅周辺の面的整備(リニア駅上部空間広場等の整備)	・ 持続可能で強靱なまちづくり、防災・減災対策 【対象となる人々】 地域住民・自然災害の罹災者
必要不可欠なサービスへのアクセス	○ 病院施設の整備	・ 医療体制の強化 【対象となる人々】 病院利用者・急患・地域住民
	○ 特別養護老人ホーム、介護老人保健施設等の整備	・ 福祉の充実 【対象となる人々】 介護を必要とする高齢者
	○ 消防関連施設・設備の整備	・ 消防機能強化 【対象となる人々】 地域住民・自然災害の罹災者
	○ 学校・教育施設の整備(学校と公的施設等との複合化推進等を含む)	・ 教育環境の充実 【対象となる人々】 生徒・学生等施設利用者
	○ 地下鉄駅の整備(バリアフリー化、ホームと車両の段差・隙間の改善等)	・ バリアフリー・ユニバーサルデザインのまちづくり、利用者の安全 【対象となる人々】 高齢者、障害者、子育てをする人々を含む利用者
手ごろな価格の住宅	○ 市営住宅の建て替え	・ 住環境の整備 【対象となる人々】 市営住宅を必要とする人々
手ごろな価格の基本的インフラ設備 必要不可欠なサービスへのアクセス	○ 防災行政無線等の整備 ○ 災害対策実施計画に基づく避難地としての公園整備	・ 防災機能強化、利用者の安全性向上 【対象となる人々】 地域住民・自然災害の罹災者
必要不可欠なサービスへのアクセス 社会経済的向上とエンパワーメント	○ 児童福祉施設の整備	・ 子育てしやすい環境の充実 【対象となる人々】 仕事と子育て等を両立する人々
	○ 障害者スポーツセンターの整備	・ 共生社会の実現 【対象となる人々】 障害者

名古屋市グリーン/ネイチャーボンドの発行概要

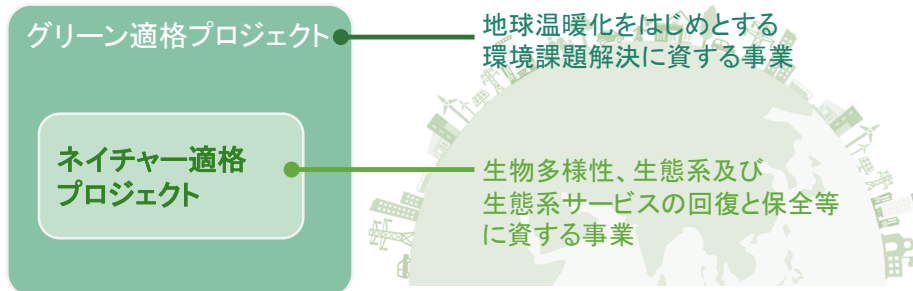
- 本市のSDGsの取り組みに対する理解促進や名古屋市債の投資家層拡大を図るため、9月に、国内初となるグリーン/ネイチャーボンドを発行します。
- 当該グリーン/ネイチャーボンドの発行により調達した資金は、「名古屋市サステナビリティファイナンス・フレームワーク」のグリーン適格プロジェクト、およびネイチャー適格プロジェクトに充当します。

名古屋市グリーン/ネイチャーボンドの発行概要

名称	名古屋市第36回5年公募公債 (グリーン/ネイチャーボンド)
年限	5年(満期一括償還)
発行額	50億円程度
各公債の金額	1,000万円
資金使途	環境課題解決や生物多様性の保全 に資する事業に限定
条件決定日	2025年(令和7年)9月5日(予定)
発行日	2025年(令和7年)9月22日(予定)
主幹事	みずほ証券株式会社(事務) 三菱UFJモルガン・スタンレー証券株式会社 野村證券株式会社
適合性評価	第三者評価機関である株式会社日本格付研究所(JCR)よりフレームワークの外部評価を取得
購入対象先	法人向け
取得格付	A1(Moody's)を取得予定

ネイチャー適格プロジェクトとは

- 地球温暖化など環境課題解決に資するプロジェクトをグリーン適格プロジェクトといいます。グリーン適格プロジェクトのうち、ネイチャーポジティブに貢献するプロジェクトをネイチャー適格プロジェクトといいます。
- ネイチャー適格プロジェクトは、国際資本市場協会(ICMA)の「Sustainable Bonds for Nature:A Practitioner's Guide」※に基づく自然関連プロジェクト(生物多様性、生態系及び生態系サービスの回復と保全等)です。



※2022年に昆明・モントリオール生物多様性枠組で掲げられた、ネイチャーポジティブに関する2030年目標等の達成に向けた資金調達を促進するための実務者ガイド。ガイド内でネイチャーポジティブに貢献する自然関連プロジェクトの事例を掲載

充当予定事業（グリーン/ネイチャープロジェクト）

■ 今回、充当予定となるグリーン/ネイチャー適格プロジェクトは次の通りです。

主な充当予定事業（グリーン/ネイチャー適格プロジェクト）

充当予定事業	学校体育館 空調設備の整備	瑞穂公園陸上競技場の 改築	南陽工場の設備更新	東山動植物園再生整備 （希少動物の「保護」と「増殖」）
グリーンボンド原則 事業区分	気候変動への適応 （グリーン適格）	グリーンビルディング （グリーン適格）	汚染の防止と管理 （グリーン適格）	生物多様性の保全 （ネイチャー適格）
事業概要	令和10年度までに市立小学校の 体育館すべてに空調設備を導入 体育館への空調設備導入例 	省エネルギー設計・性能に加え、 自然と調和した公園風景を実現 する競技場の改築 瑞穂公園陸上競技場イメージ  ©2021 (株) 瑞穂LOOP-PFI ※画像はイメージです	ごみ焼却施設を改修・更新し、 不燃・粗大ごみ処理施設を新設 南陽工場設備更新後イメージ  ©2021 JFEエンジニアリング(株) ※画像はイメージです	希少な動植物に関する研究を行 うとともに、動植物の展示を通じ た環境教育を行う東山動植物園 の再生整備 飼育・展示施設整備後イメージ  提供：名古屋市東山動植物園 ※画像はイメージです
想定される効果	熱中症対策	CO ₂ の排出量削減	有害物質の排出量削減 CO ₂ の排出量削減	希少動植物の保全・増殖 生態系の保全への貢献
関連するSDGs	3.すべての人に健康と福祉を 13.気候変動に具体的な対策を  	7.エネルギーをみんなに そしてクリーンに 11.住み続けられるまちづくりを 13.気候変動に具体的な対策を   	7.エネルギーをみんなに そしてクリーンに 11.住み続けられるまちづくりを 13.気候変動に具体的な対策を   	13.気候変動に具体的な対策を 14.海の資源を守り、大切に使う 15.陸の豊かさを守ろう   